

こ だま げん た ろ う
児玉 源太郎

嘉永5年(1852)～明治39年(1906)



人物紹介

嘉永5年(1852)、徳山藩士児玉半九郎の長男として周防国都濃郡徳山村横本丁に生まれた。幼名は百合若、長じて健と称し、後源太郎と改めた。

安政3年(1856)に父が亡くなり、源太郎は幼少でまだ家督を継げなかったため、浅見家から次郎彦が姉久子の夫として迎えられ児玉家を相続した。

元治元年(1864)8月、幕府との抗戦を主張する正義派であった次郎彦は、対立する俗論派に暗殺され(徳山殉難七士の一人)家名断絶となった。しかし、翌慶応元年、藩論が回復して正義派が台頭したので、児玉家の家名は再興され、源太郎は中小姓として禄25石を給された。

明治元年(1868)10月、徳山藩の献功隊半隊司令として秋田に出征、翌2年箱館の戦いに参加し、凱旋後京都二条河東練兵場に入った。以後、陸軍に出仕し佐賀の乱、熊本神風連の乱、西南戦争に出征し、同20年(1887)陸軍大学校長に就任した。同24年(1891)欧州各国の軍事教育を視察し、翌年帰朝して陸軍次官に就任。日清戦争では大本営留守参謀を務めた。

同31年(1898)、台湾総督となり、以後台湾の近代化に尽力する。同33年(1900)、第4次伊藤内閣に入閣して陸軍大臣を兼務、そのまま桂内閣に留任。同36年(1903)には、内務大臣および文部大臣を兼ねた。またこの年日露国交の切迫とともに自らの地位を下って参謀次長に転じた。同37年(1904)、陸軍大将となる。日露戦争では満州軍総参謀長として作戦を遂行した。同39年(1906)、参謀総長及び南満州鉄道株式会社設立委員長に就任したが、7月23日、牛込薬王寺前町の自宅で急逝した。享年55歳。

児玉文庫

児玉文庫は、明治36年(1903)1月に、児玉源太郎が後進の育成を願って郷里徳山に開設した私立図書館である。

同30年(1897)、英照皇太后(孝明天皇の皇后)崩御の折、陸軍次官であった源太郎が、葬儀の重任を果たしたかどで皇室より賜った金一封に、若干の金子を加えて旧邸宅を買戻し、この地を「藤の園」と命名し、自らも藤園と号した。そして、義兄次郎彦の遺績を記念する石碑を設けて併せて郷里の後進を啓発後進を啓発すべく文庫を設立。建築費は総額1,200余円、文庫の建坪は、総坪数30坪であった。

同36年(1903)1月23日、開庫式が行われ、設立者の児玉源太郎が臨席し文庫設立の趣旨と由来について演説している。この文庫の開設は、イギリスの日英新聞「ゼ・アングロ・ジャパニーズ・ガゼット」でも源太郎夫妻の肖像写真入りで紹介された。

初期の蔵書は、有志からの寄贈と旧徳山藩校興譲館の蔵書から成っており、同38年(1905)には8,840冊であったが、昭和16年には42,174冊に達した。明治39年7月に庫主である源太郎が亡くなると、その子秀雄が後継者となり、同40年には閲覧室と書庫を増設。さらに巡回書庫(文庫)、館外貸出、児童へのサービス、展覧会、年次報告書の発行など、様々な図書館活動を展開した。

児玉文庫は、昭和20年(1945)7月26日の空襲により焼失。現存する文庫ゆかりの品は、空襲の焼け跡に残った門標と、山間部の利用者が借りていて戦災焼失を免れた、貸出箱及び「児玉文庫」の蔵書印が押さえている図書6冊のみである。現在、この文庫の存在した場所に児玉文庫開設百周年の碑が建てられ、源太郎の産湯の井戸が保存されている。また平成27年9月17日には公園「児玉源太郎生誕の地」として整備された。



児玉文庫焼失後も図書館再建を望む市民の声は根強く、戦後復興間もない昭和28年(1948)10月10日に徳山市立徳山図書館(現在の周南市立中央図書館)が設立された。平成31年に周南市立中央図書館はかつての児玉文庫を偲ぶとともに、児玉源太郎の志を受け継ぐものとして、愛称を「児玉文庫メモリアル」と定めた。併せて同館2階郷土・参考室には「児玉文庫・児玉源太郎資料コーナー」が設置された。

児玉神社

児玉神社の始まりは、児玉源太郎が明治39年(1906)に逝去

した後、三回忌を機に親友の杉田茂丸が東京・向島の私邸に祠を建てて祭ったことに遡る。その後、祠は児玉のお気に入りの

地であった神奈川県江ノ島に移され、神社として公認を受けた後、大正10年(1921)に後藤新平らによって社殿が造営され、盛大な遷座式が行われた。徳山の

児玉神社はその翌年、大正11年(1922)に地元有志らの発起によって、江ノ島の児玉神社から分祀され、児玉の旧宅跡に建てられたものである。

現在、境内には「徳山七士碑」をはじめ、源太郎薨去の際の御沙汰書碑や、児玉ヒサの褒章記念碑、後藤新平の児玉神社参拝記念碑、山縣有朋の歌碑など、源太郎ゆかりの石碑が立ち並んでいる。台湾との関係を伝えるものも多く、街路に植えられた台湾ゴヨウは大正14年(1925)に台湾から贈られたものである。戦後の都市計画の際も伐採を免れ、今日まで残されている。また、拝殿に掲げられた「児玉神社」の揮毫は台湾の李登輝元総統によるものである。

その後も平成14年(2002)には生誕百五十年を祝う記念大祭が行われ、平成28年(2016)に児玉源太郎顕彰会が設立されるなど、郷土の偉人として顕彰する取り組みが続けられている。令和4年(2022)には遷座百年を記念した奉祝祭が盛大に執り行われた。



台湾ゴヨウ



児玉神社

資料紹介

(周南市立中央図書館所蔵の児玉源太郎に関する本)

◎がついている資料は貸出可能です。

<伝記・評伝>

・『[児玉源太郎](#)』◎

宿利 重一／著 マツノ書店 1993年 【請求記号】289.1K
☆昭和18年5月に国際日本協会から出版されたものをマツノ書店が復刻。

・『[児玉源太郎](#)』◎

長田 昇／著 「児玉源太郎」出版記念委員会 2003年 【請求記号】289.1K

・『[児玉陸軍大将 写真画報臨時増刊 第1巻第13編博文館／編](#)』◎

マツノ書店 2005年 【請求記号】289.1K
☆明治39年8月に博文館から出版されたものをマツノ書店が復刻。巻末に児玉源太郎略年譜(マツノ書店編)。

・『[児玉源太郎ー日本と台湾を愛した武士\(サムライ\)ー](#)』◎

谷川 桜太郎／構成・作画 黄 文雄／巻頭言 NPO・ふるさと日本プロジェクト 2005年 【請求記号】289K
☆マンガでわかりやすく児玉源太郎の生涯が紹介されている。

・『[史論児玉源太郎 明治日本を背負った男](#)』◎

中村 謙司／著 光人社 2006年 【請求記号】289.1K

・『[児玉源太郎 そこから旅順港は見えるか](#)』◎

小林 道彦／著 ミネルヴァ書房 2012年 【請求記号】289.1K

・『[児玉源太郎 明治陸軍のリーダーシップ\(日本史リブレット人 089\)](#)』◎

大澤 博明／著 山川出版社 2014年 【請求記号】289.1K

・『[児玉源太郎](#)』◎

長南政義／著 作品社 2019年 【請求記号】289.1K

・『[台湾を目覚めさせた男 児玉源太郎](#)』◎

木村健一郎／著 梓書院 2021年 【請求記号】289.1K

<小説>

・『[天辺の椅子](#)』◎

古川 薫／著 毎日新聞社 1992年 【請求記号】F1フル

・『[大軍師児玉源太郎](#)』◎

中村 晃／著 叢文社 1993年 【請求記号】F1ナカ

・『[児玉源太郎 明治陸軍の巨星](#)』◎

三戸岡 道夫／著 学研 2002年 【請求記号】F1ミト

・『[児玉源太郎 日露戦争における陸軍の頭脳](#)』◎

神川 武利／著 PHP研究所 2006年 【請求記号】F1カミ

・『[斜陽に立つ](#)』◎

古川 薫／著 毎日新聞社 2008年 【請求記号】F1フル

<写真集・資料集>

・『[児玉源太郎とその時代展](#)』◎

徳山市美術博物館／編集 徳山市美術博物館 1999年 【請求記号】280S

・『[児玉源太郎と近代国家への歩み展 日本の進路を託された男](#)』◎

周南市美術博物館／編集 周南市立中央図書館 2011年 【請求記号】289.1K

・『[周南風土記写真集 叙勲記念](#)』◎ p67～「豪胆にして無私の人 児玉源太郎」

小川 宣／著 赤坂印刷 2007年 【請求記号】T210

・『[藤園記念画帖 児玉源太郎十三回忌記念](#)』

児玉 秀雄／編 マツノ書店 2010年 【請求記号】T28K

☆児玉源太郎の十三回忌に、長男秀雄が作成したもの(大正7年刊)をマツノ書店が復刻。

・『[児玉源太郎関係文書](#)』◎

尚友倶楽部児玉源太郎関係文書編集委員会／編 同成社 2015年 【請求記号】210.6K

・『[児玉源太郎資料調査報告書](#)』◎

周南市教育委員会教育部生涯学習課／編 周南市教育委員会 2020年 【請求記号】289.1K

・『[文庫開設百周年記念 児玉源太郎資料展](#)』

周南市立中央図書館／編 周南市立中央図書館 2003年 【請求記号】T02S

・『[私立児玉文庫報告](#)』(複写資料 明治38年4月 児玉文庫発行)

徳山市立図書館 1980年 【請求記号】T01K

<会報>

・『[児玉源太郎顕彰会会報「藤園」](#)』◎

児玉源太郎顕彰会 2016年 【請求記号】289.1K

<視聴覚資料>

・『[児玉源太郎 未来を築く 全3巻](#)』◎

児玉源太郎顕彰会 2020年 【請求記号】DV 291 コ

周南市立図書館展示

○中央図書館2階郷土・参考室

・「[児玉文庫・児玉源太郎資料コーナー](#)」

☆児玉源太郎の書簡、空襲を免れた児玉文庫ゆかりのものなどを展示しています。

○周南市立図書館ホームページ・郷土資料ギャラリー

・「[児玉文庫と児玉源太郎](#)」

☆中央図書館が所蔵する児玉文庫の写真や児玉源太郎の書簡をHPに掲載しています。



児玉文庫・児玉源太郎資料コーナー